

## 令和7年度第1回亀岡市環境審議会議事録

開催日時	令和8年1月27日(水) 午後1時～3時
開催場所	Circular Kameoka Lab
出席者	高澤会長、堤委員、永田委員、田部委員、竹内委員、竹岡委員、俣野委員、森委員、伊藤委員、中西委員、八木委員、山本幹事、山内幹事 (事務局3名)
欠席者	西井委員、松本幹事、信部幹事
傍聴者数	2名
次第	審議事項 (1)亀岡市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)別冊の策定について 報告事項 (1)第3次亀岡市環境基本計画の取組状況について (2)「かめおか脱炭素未来プラン」進行管理について (3)亀岡市環境白書について

### 1 委嘱状交付

### 2 会長挨拶

### 3 施設見学

### 4 審議事項

#### (1)亀岡市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)別冊の策定について

≪資料に沿って事務局から説明≫

#### 委員

市街化区域の屋根や白地エリアなどの区分は示されているが、実際に再生可能エネルギーの導入が実現可能かどうか、また計画の具体性が不明である。また、自分が住んでいる場所の区分について、配布されたゾーニングマップだけではイメージが難しい。

## 事務局

2050年のカーボンニュートラルに向け、まず2030年の「カーボンハーフ」を国が目標として掲げている。本市を含む全国の多くの自治体では、目標値が先に決まっているバックキャスト方式で計画を立案していることから、かなり高い目標を掲げることとなっている。

本市における効果的な対策としては、短期的には屋根置き太陽光発電が有力であり、住宅や公共施設、事業所の屋根などがあげられる。その他、ゾーニングの結果として採石場やゴルフ場が位置する白地エリアなども活用候補となっている。

様々な選択肢を候補に入れる中で、ゾーニングマップは発電事業者を対象にやや専門的なつくりとなっているが、インターネット上でマップデータを公表しているため、合わせて紹介することで住民理解を得られるよう努めたい。

## 委員

個人的な意見になるが、亀岡市のため池は今後撤去していくべきと考える。その後の跡地利用として太陽光発電などに転用すればよいのではないかと。

## 事務局

昨年からは農業者へのヒアリングを進めているが、本市のため池は山間部に多いこと、また形状の問題から水上型太陽光発電に適したため池の絞り込みが難しい。そのため、農業用ため池だけでなく開発団地などの調整池にも検討の幅を広げている。

目標達成に向けて短期的には太陽光発電が有効であり、市庁舎の駐車場にもソーラーカーポートを設置したところだ。中長期的には小水力や風力、バイオマスなどの再エネ種もあるため、引き続き検討を進めたい。

## 委員

亀岡市は交通のアクセスもよく、今後とも開発の可能性があるとと思っている。一方で豊かな自然環境を守る環境保全の観点も必要かと考えるが、太陽光発電以外のバイオマス発電等に係る検討は進めているのか。

## 事務局

2030年に「カーボンハーフ」、2050年に「カーボンニュートラル」を目指す上で、太陽光発電に限らず木質系や生活系バイオマス発電を含め、多様な再エネ種を検討する必要があると認識している。例えば風力は環境保全の観点から導入が難しいと考えるが、小型の風力発電なども研究されているため、今後も様々な可能性を探りながら目標達成を目指したい。

## 委員

再生可能エネルギー導入の必要性は理解しているが、太陽光パネルの大量廃棄への対応策はどう考えているのか。

ゾーニングにおける保全エリアがかなりの面積を占める中、目標達成の現実性をどのように捉え、また、具体的なロードマップを描く準備はあるのか。

## 事務局

本市では、地上設置型太陽光発電の禁止条例を先行整備しており、環境保全と再生可能エネルギーの両立を目指している。今回策定する計画においても太陽光パネルの廃棄問題を重要事項と位置づけており、環境保全や維持管理・廃止に関する留意事項を記載している。

高い目標であることは認識しており、国産のペロブスカイト型太陽光発電等の技術革新に期待を寄せるとともに、国・府の支援も得ながら本市の地域資源を活かした再エネ導入の仕組みづくりを進めたい。

## 委員

太陽光パネルのライフサイクルを見通した計画は重要だが、設置から廃棄に至る責任は事業者にあり、廃業等のリスクも見越した上で、国や自治体によるリサイクル支援やバックアップ策が必要ではないか。

地球温暖化対策として再生可能エネルギーの導入には期待しており、特に営農型太陽光発電には大きなポテンシャルがあると感じている。

## 事務局

ご指摘のとおり太陽光パネルの廃棄に係るリスクを考える上で、保険加入の促進や積立制度の拡充などが今後の課題だと認識している。本市が出資する地域新電力会社「亀岡ふるさとエナジー」は安定的な経営や持続性・安全性の担保の上で他自治体にはない強みであり、活用を進めたい。

本市における農地面積の広さを鑑みると営農型太陽光発電には大きな可能性があると考えている。本市の地域資源を活かし、地域と共生するかたちで再生可能エネルギーの導入を進めたい。

## 委員

所有者が不明な田んぼ・畑があり、耕作放棄地となっているケースも見受けられる。小規模な面積であっても集積して開発すれば太陽光発電を導入するメリットがあるのではないか。

## 事務局

2030年のカーボンハーフ達成に向けて実現可能性の高い施策を戦略的に推進する必要があり、営農型太陽光発電の導入や荒廃農地等への太陽光パネル設置も含め、幅広い手段を検討していきたい。

## 委員

2030年の再生可能エネルギーの導入目標量である8.8万MWh/年は具体的にはどのくらいの量か。

## 事務局

住宅屋根に設置する太陽光発電で換算すると約1万3,000戸以上に導入する計算となる。

市内の戸建ては約4万戸となっており、その3割以上への設置が必要となるため、公共施設をはじめ事業所の屋根や駐車場など対象を広げながら導入を進めたい。

## 5 報告事項

### (1)第3次亀岡市環境基本計画の取組状況について

《資料に沿って事務局から説明》

#### 会長

目標数値と実績値に開きがある項目も多いため、引き続き取組を進めて欲しい。

### (2)「かめおか脱炭素未来プラン」進行管理について

《資料に沿って事務局から説明》

### (3)亀岡市環境白書について

《資料に沿って事務局から説明》

#### 委員

8ページ目の「市内河川のBOD年間平均値」について、「環境基準」の数値が他のページで示す同数値と異なっている。

#### 事務局

正しい数値に修正させていただく。

#### 委員

特定化学物質に指定されているPFOS・PFOAについて測定はしていないのか。

#### 事務局

環境白書に掲載している水質検査においては実施していない。

#### 委員

市として独自に調査してはどうか。

#### 幹事

京都府が実施する水質検査として1カ所測定しているデータがある。

#### 委員

そちらのデータを提供してもらえないか。

※後日、事務局からデータ提供することとなった。

## 委員

環境基準の表記が分かりづらい。各調査項目ごとに A 等の表記があった方がよいのでは。

## 事務局

表記方法については検討させていただく。

## 委員

エコウォーカーのような個人の善意に頼った活動には限界があるため、例えばペットボトル販売における「デポジット(預託金)制度」を導入してはどうか。業界の反応や事務処理の課題はあるが、市民の行動変容を促す上で効果が大きいと考える。先行して実施している海外では回収率が高く、ボトル to ボトルのリサイクルによって真の資源循環につながる。

亀岡市では、プラスチック製レジ袋の提供を禁止した先進的な実績もあり、世界に誇れる環境先進都市への一歩として検討を進めて欲しい。

## 会長

特にドイツでは先進的にデポジット制に取り組んでいると聞く。学生からもデポジット制を提案する意見が多い。限定された一つの地域での導入は難しいかもしれないが、ぜひ検討して欲しい。

## 委員

進行管理等のまとめにおいて、累積された数値か単年度の数値かなど判別が難しい表記があるため工夫いただけるとありがたい。

## 事務局

検討させていただく。

## 会長

環境白書について、基準値を超えて悪い結果となった場所はあるのか。

## 事務局

深刻な結果となった場所はないと認識している。

## 会長

脱炭素化促進事業について、亀岡市らしさや地域性を反映させられないか。

## 委員

脱炭素化促進事業として認定を受けている事業やその数、規模などを示してもらえないか。

## 事務局

令和8年3月末に促進区域を設定した後、事業認定等が発生するため現状として示すことはできないが、公表方法については来年度以降、検討したい。

## 6 閉会

以上